

SIFA ニュース



NO. 99

2018 年度 冬号

(公財) 鈴鹿国際交流協会

災害時多言語ボランティア募集

内 容

【案内】

- 災害時多言語ボランティア募集
- すずかのせいかつ
- わいわい春まつり 2019

【報告】

- 国際理解講座 医療支援から難民問題を考える
- 多文化共生のつどい
- 国際理解料理講座
- 110年にわたるブラジルと日本との絆パネル展

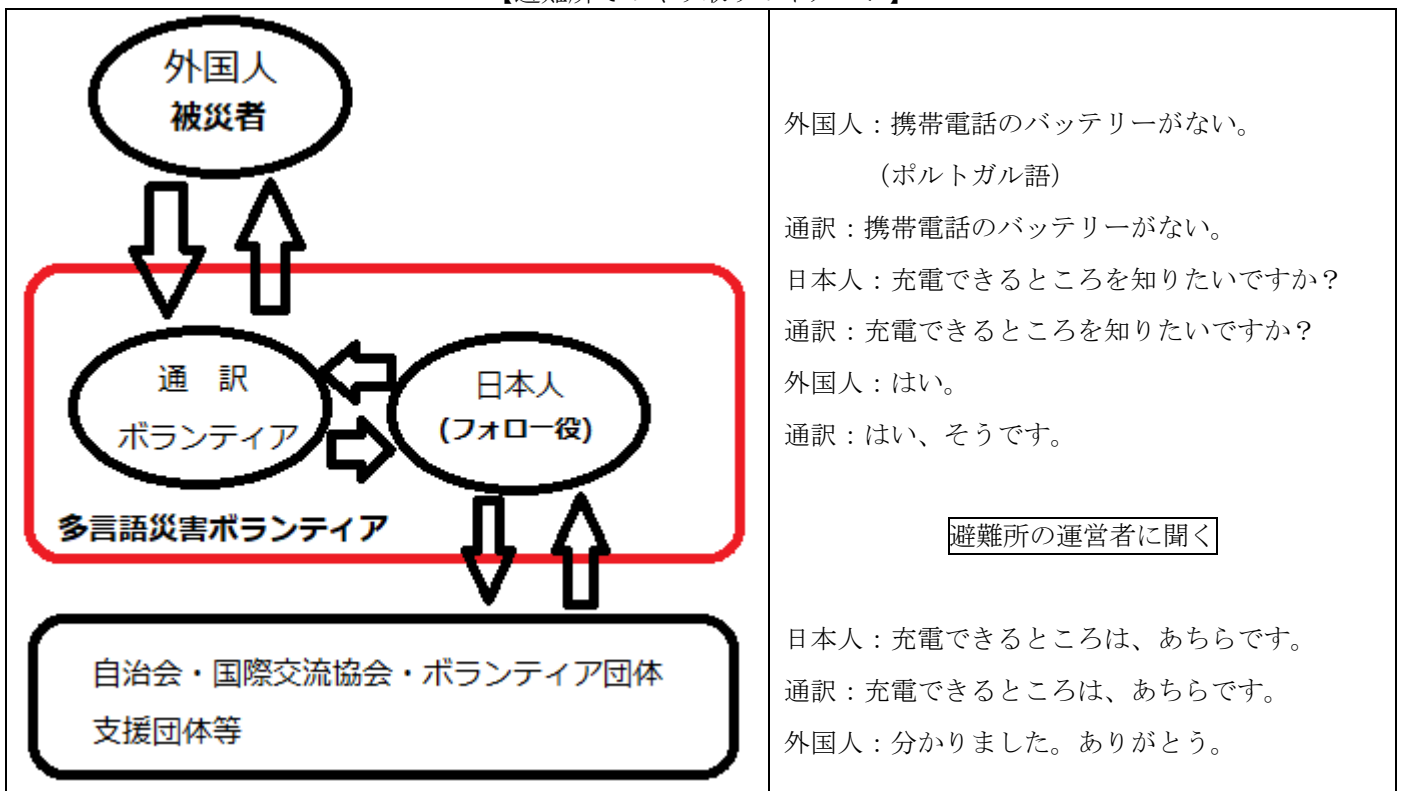
鈴鹿市に在住する外国人の中には、地震のない地域から来ている人がたくさんいます。そのため、災害時に命に関わる大切な情報をどのように届けるのか、考えておく必要があります。

これまでも、台風の通過時に行政からエリアメールが発表された際、内容が分からず困ったという声をたくさん聞いてきました。

そこで、SIFA では、国や県、市、大使館から出る情報を届けたり、ボランティアセンターや避難所での橋渡しをしたりするボランティアを募集いたします。災害時多言語ボランティアは、通訳のできる方とその方をフォローできる日本人とで一緒に行きます。通訳ボランティアは、決して災害対策について明るい方ではありませんので、フォローできる日本人との協力が不可欠です。フォローする日本人は、下の図の様に各団体との間に入り必要な情報を選択し、つなぐ役割を担います。

3月下旬に説明会を予定しています。ご興味のある方は、SIFA へご連絡ください。

【避難所でのやり取りのイメージ】



すずかのせいかつ

2013-14年の2年にわたり市内日本語教室の皆さんと一緒に作り上げた日本の生活を学ぶ教材「すずかのせいかつ」をSIFAのHPに掲載いたしました。これまでは、各教室に設置していましたが、よりたくさんの方に利用していただくために、内容を一部修正し公開することになりました。

トップから「日本語を学ぶ」→「出版物等」とお進み頂くと、動詞カードの下にあります。絵や写真をたくさん入れ、あいさつ・買い物・病院・交通手段・地域社会・外食について学べるようにしています。

また、鈴鹿の方言も外国の方が自分のことばを書き込んでマイ辞書を作れたり、実生活の一部を切り取って鈴鹿のことばに言い換えたりする等、楽しく学べるように工夫しています。

よろしければ、お近くにお住いの外国人に教えてあげてください。

すずか 鈴鹿のことば

- ～な一。＝～ですね。
これ、おいしいな一。
そやな一。
- ～や。～やわ。＝です。ですよ。
A: 明日の天気どうやろ。
B: 月がきれいやで、明日は、晴れやわ
- あんなあ。＝あのさあ
あんなあ、ええこと教えたるで。

鈴鹿国際交流フェスタ 2019

わいわい春まつり 当日ボランティア募集!

今年も“わいわい”の季節がやってきます♪

開催日は4月14日(日)、鈴鹿ハンター&弁天山公園で行います。

このおまつりは、毎年多くのボランティアのみなさんに支えられて開催出来ています。

午前のみ・午後のみでもOKです!是非一緒におまつりを作って盛り上げましょう♪



国旗の飾りつけ



のぼり旗や掲示物の取付け・設置



椅子やテーブルの設置



民族衣装を着て募金活動



コーナーごとに役割を分担



屋台のお手伝い



ゴミ分別のお手伝い



後片付け・撤収作業

- 4月 6日(土) ボランティア説明会
- 4月 13日(土) 前日準備
- 4月 14日(日) 本番

※学生さんには、ボランティア証明書を発行します。
※ボランティアの申し込み、お問い合わせは、SIFAへ。

国際理解講座 医療支援から「難民問題」を考える

11月3日(土)に鈴鹿医療科学大学白子キャンパスにて行い、34名の方が参加されました。

第1部では、シリアの現状を子どもの目線で捉えたドキュメンタリー映画「シリアに生まれて」を鑑賞しました。内戦で住む場所を失い、家族がバラバラになり、兄弟でも一緒に住むことが許されなかったり、新しい土地で言葉や文化を覚えていくことに様々な困難が伴ったり、只々状況を受け入れるしかない子どもたちを見て世界で起こっている大変大きな問題を再認識いたしました。

第2部では、伊勢赤十字病院の看護師の東恵理さんより、パキスタンの難民キャンプでの医療支援について教えていただきました。未熟児で生まれてきた子どもの消えていく命を救おうと奔走された事や、医療支援を充実させるために訪問看護を行ったり、診療施設を現地の方と力を合わせて行ったりと限られた時間で何ができるのか考え活動されたそうです。命の重みを考える貴重なお話でした。



↑ 沢山の方に参加していただきました



← 難民キャンプの状況を話す東さん

大学生も積極的に質問していました。→



“多文化共生のつどい”にて講演をしました



1月20日、牧田コミュニティセンターにて、牧田地区地域づくり協議会が主催する“多文化共生のつどい”に参加し、「学校教育・地域教育・家庭教育」について講演をさせて頂きました。

インフルエンザが猛威を振るう中、当初講演を予定していた川出が罹患してしまい、急遽、中野がピンチヒッターとなりました。

会場には、地域づくり協議会のみなさんの他、外国籍（ブラジル・中国）の方が17名（内子ども6名）、教育委員会や学校の先生方もたくさん参加され、出席者は総勢53名となりました。

講演は、主に、外国人住民のみなさんが日本に住んでいて困った時に相談できる場所、子供の教育に関して学べる所などを紹介し、日本人のみなさんには地域に住む外国人の現状について知ってもらい、多様性のある地域づくりを考えるきっかけとして頂きました。

学校では、外国人児童生徒の為に進路ガイダンスがあること、夏休みの宿題を見てももらえる場所や送迎を手伝ってもらえる施設などを紹介しました。

ワークショップでは、4つの班それぞれで、外国人の方の悩み・相談を聞き、皆で一緒にその課題について話し合いました。多くの外国人から出た共通の課題は、「学童保育」のことでした。ディスカッションの中で色々なアドバイスがあり、外国人参加者からは、「このように日本人と一緒に話し合える機会はなかったのでとてもよかったです！」という感想がありました。

SIFAでも、来年度、夏休みに子供の宿題をみる教室作りを検討しています。

外国人のみなさんの悩みが少しでも減るといいですね。

ブラジルのクリスマス料理講座を開催しました！

12月9日（日）文化会館調理室で、ブラジルのクリスマス料理講座を行いました。参加者は27名、内8名は外国人（ブラジル人、インド人）でした。

講師は日本に住んで22年、内15年間お弁当を作り販売している、タカダ・カズコさんでした。メニューは、ブラジルのクリスマスに欠かせないローストチキン、サウピカンサラダ、味ご飯のアホース・ア・グレーでした。

講師の補助として来られた阿部ステファニーさんに、クリスマス時ブラジルの家庭で行われるデコレーションを披露して頂き、飾りつけのコツを学びました。



外国人の参加者が多かったので、異文化交流もできて楽しい料理講座になりました。

タカダさんは日頃から、地域の皆さんにブラジル・ペルーの文化紹介ができる場所を作り、子ども向けの料理講座を企画したり、高齢者の為の職場づくりをしています。

子どもの絵画展を開催しました



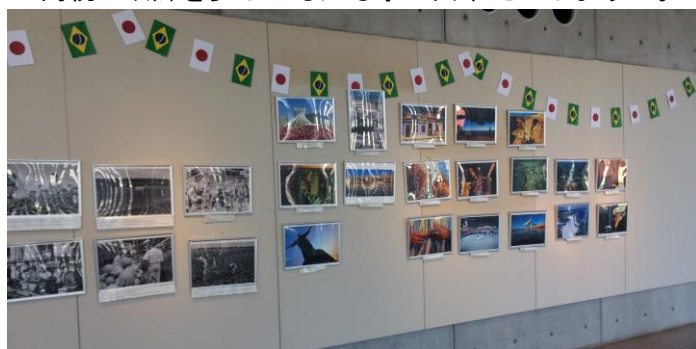
12月19日～23日、鈴鹿市役所1階市民ギャラリーにて、日本人のブラジル移住110周年を記念して「110年にわたるブラジル人と日本人との絆～絵画・パネル展示会」を開催しました。

先立って開催された在名古屋ブラジル領事館の「子どもの絵画コンクール」入賞作品40点をお借りしました。ブラジル人の子ども達の描く絵日本人の子の描く絵と

は少し異なりますが、その中でも日本文化の影響を受けた個性的な作品となっていました。

ブラジルへの移民当時に撮られた写真や現在の写真も展示しました。またブラジルの食べ物や商品を扱う鈴鹿市内の店もパネルで紹介しました。

今回の展示会を通して、日本生まれ日本育ちのブラジル人のお子さんたちは、祖国と日本とのつながりや両親の故郷を少しでも知る事が出来たでしょうか。



公益財団法人鈴鹿国際交流協会（SIFA）

〒513-0801 鈴鹿市神戸 1-17-5 別館第3 TEL：059-383-0724 FAX：059-383-0639

✉ sifa@mecha.ne.jp URL：<http://www.sifa.suzuka.mie.jp>